



年度末！！メンバー感想

早いものでもう3月になってしまいました。昨年10月から開始したこのニュースレターでは、メンバーの様々な活動を取り上げてきましたが、今回は今年度の活動を振り返った感想を一人づつ書いてもらいました。

1年 石渡 由理

今年度の活動を通して感じた「公衆衛生」は、地域の健康を維持、向上させるために、住民の方一人ひとりの当事者意識で土台を作り、更にその意識の輪を広げ、繋がりをもつことが重要であるということです。

獨医祭インタビューでは、壬生町に住む方々にインタビューをしました。そこでは、想像に及ばなかった課題や、それに対する解決策などを話し合い、考えることで、当事者意識を持ちながら、学びを深めることができました。また、児童虐待防止啓発イベント、壬生町社会福祉協議会訪問を通して、人と繋がる意味、重要性、「孤立」とは何であるか考えさせられました。実際に地域の方と関わり

働かれている方とお話する中で知ったジレンマ、やりがいからは、やはりどんなに強い思いがあったとしても、地域という大きな単位を動かすには大変な労力と十分な時間がどうしても必要なのだと感じました。

「孤立」というキーワードを頭に置きながら、これからも「公衆衛生」と向き合いたいと思います。



1年 能登 一樹

私は将来、患者の健康に対して社会的なアプローチを通して健康の向上を支援する医師を目指したいと考えている。そのため、早くから公衆衛生の考え方に触れこれまでの人生で触れてこなかった様々な社会の実情を知り、自分に何ができるのか考えたいと思い公衆衛生学研究室への配属を希望した。

今年度の活動のうち、私が参加したのは「児童養護施設施設への訪問」および「寄付して頂いた物資のお渡し」である。訪問で一番印象に残ったのは、常に一緒にいてほしいという言葉がかけられたことだ。目の前に自分を必要としてくれる人がいるのに何もしてあげられないやりきれなさは今でも忘れられない。来年も行く約束をしたのだから、たとえ彼が覚えていなくともまた会いに行きたいと思う。お渡しの際は職員の方に町が行っている様々な活動のお話を聞いた。人は1人では決して生きて行けない。活動の中で何度もそう思った。

2年 長江 大樹

私は今年度、児童養護施設ネバーランドの見学と児童虐待防止啓発イベントに参加しました。児童養護施設の見学では、職員さんから、虐待などにより幼少期に十分な愛情を受けないまま育った子供が多いことや、里親に行ったが里親との関係がうまくいかずに施設に戻ってきた子もいるという話を聞き、虐待から逃れた後も様々な問題があることを知りました。

また、児童虐待防止啓発イベントでは、虐待を受けた人のドキュメンタリー映画を鑑賞しました。映画では、虐待を受けた人が虐待から逃れることができても精神的苦痛に苦み続ける人が多いことを知り、虐待から逃れた後も様々な問題とも向き合っていかなければならないと知りました。

私は、公衆衛生は社会の中で病気を予防するというイメージが強く、精神的な健康についてはあまり考えていませんでした。また児童養護施設についても知らないことがとても多く、施設の存在意義から施設の抱える問題点までとても勉強になりました。

3年 猪野 文音

私は夏の研究室配属で阿部先生の研究室に配属されたことがきっかけで公衆衛生の研究室に入ることにしました。最初は獨医祭のみぶまち健康大学のためにグループ名やロゴを考えたのですが、ちょっと大変だったけど、つくってるときも楽しかったし、自分たちが考えたものが形になったのは嬉しかったです。学祭当日はお手伝いとして壬生町の方と話し、もっと壬生町の方と関わってみたいと感じました。今年度はイベントとかにあまり参加できなかったのですが、来年度はもっとイベントに参加できたらなと思います。

まさか自分が研究室に入るとは思ってはおらず、研究室にはって先生方との関わりができたのはほんとにびっくりしました！春山先生特製のチャーシューを食べれるのを楽しみにしています笑。来年度も阿部先生、小橋先生をはじめとする公衆衛生教室の先生方、技術員さん、よろしくお願いします！



3年 加納 怜奈

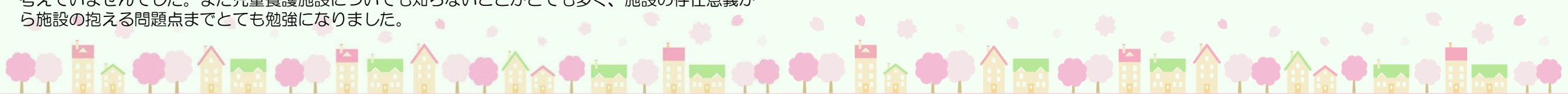
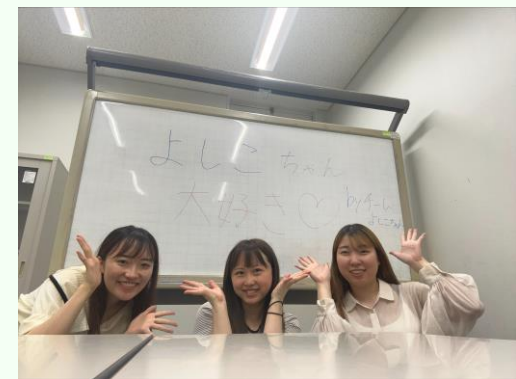
今年度の活動を通して地道な作業によって地域の人々をはじめとした人々の暮らしや悩み、病気や地域に対する考えや思いなどを知ることができたと感じました。

二学期末の研究室配属で阿部先生の講座を選び、城址公園で地域住民を対象としたアンケートを配布し、集計を行いました。想像以上にデータ化するまでも時間があると感じました。また、集めたデータを用いて因果関係を考えていくことにはデータの数によって根拠として用いることが出来ないことや結びつきがないことも多く地道な作業でもありました。その一方で、イベントにいらしていた壬生町の方は比較的人とのつながりを保っていることやひとり親世帯や老人において人との関わりを持っていることが他の項目に比べると低いことがわかり、解消するにはどうしたらいいか考察ができ、普段の座学では考えない公衆衛生と

してのまちの見方を学ぶことができました。そして、より大きな母数で見た時にどうなるか気になったので壬生町だけでなく他の町との比較を機会があったら行ってみたいです。

3年 松本 怜

私は今年度から公衆衛生講座に入り、医学研究実習など数回活動させていただきました。地域の人たちの思いや、意見を通じて、壬生町がどのようにしたらさらに活性化するのかや私たちにできることなどを考えてきました。研究実習では地域の方々にアンケートをとり、データまとめ、グラフや図を作成することを身につけ、地域の状況をわかりやすく可視化することができとても為になりました。また、獨医祭でも地域の方々とコミュニケーションを取ることができ、実際の地元の方の声を聞くことができ身近に感じることができました。また、壬生町の活性化に向けてのアイドル代表？として色違いのtシャツを作ることもでき嬉しかったですし、いい思い出になりました。さらにこれらを通じて、改めて壬生町民の人柄の暖かさや優しさを感じ、これからもよりよい壬生町になって欲しいと心から思っています。また、これからも少しでも壬生町に貢献できたらと思っています！



3年 竹内 和香菜

医学部3年の竹内です。今年度は講義、部活動、他の研究室が忙しくあまり公衆衛生の活動に参加できませんでした。公衆衛生学とはなんですか？と聞かれたとき、その答えを端的に表す言葉を見つけるのは難しいと私は考えます。公衆衛生学を学ぶためには教科書を使った学習が一般的です。またそれに加えて自分が興味を持ったことに挑戦すること、参加することが学ぶ上で重要な要素を担うのではないかと思います。私は自身の好奇心のアンテナを張って、ピンときたことにどんどん飛び込んでいきたいと思ひます。



4年 今泉 勇人

皆様、一年間の活動お疲れ様でした。私個人は昨年の夏季に行われた社会医学セミナーの参加が印象的な活動でした。以前、紹介したので覚えていらっしゃる方も多いかと思いますが、社会医学セミナーとは全国の医学生と共に公衆衛生に関わる様々な分野のお話を拝聴したり、ワークショップを1泊2日で体験したりするセミナーです。昨年は京都で行われ、送り火の見学や他の医学生らと活発に交流するなどの素晴らしい経験となりました。本年は、九州の福岡県で開催される予定で、同様に多彩なプログラムが用意されるとのことです。ぜひ、応募し参加されてみては如何でしょうか。これまでのニュースレターを拝見し、ドイツ研修に行かれたこと、児童虐待防止啓発イベントへの参加、クリスマスコンサート等、多種多様な活動に刺激を受けました。今後も皆様と一緒に活動に取り組んで行けたら嬉しいです。

4年 太田 彩華

私は今年度、地域のクリスマスコンサートに参加させていただいたり、健康大学のお手伝い等をさせていただきました。地域の方と実際に交流する中で、どのようにしたら、まち全体を健康にできるかを一緒に考えていくことが大切だと学びました。活動を通して感じたのは、公衆衛生とは身近なものであり、その実態は多岐に渡るといことです。将来医師となった時、そのうちのどのような分野に携わり、どのように貢献していくかを“具体的に”考えていくことが、私自身の今後の課題だと感じました。来年度以降の活動に関しては、今年度と同様に地域の人との交流を深めて地域ごとの健康に対する課題を抽出すること、更にイベントを実際に計画して、地域の方の健康向上に直接つながるような活動をしたと考えています。また、他の研究室配属に所属している方の中には、海外研修プログラムや京都のサマーセミナーに参加している方もいました。他の大学の方との交流を通して、公衆衛生に対する学びをより一層深めていければと思います。

4年 野々山 陽仁

私が、獨協医大に入学して結構な月日が経ちましたが、この研究室配属に参加したのは、ここ2年の間のことです。環境が変わると共に壬生町も入学したときより大きく変わってきていると思います。ここ最近で顕著になってきている点は、住宅用地の開発が進んでおり、新しい住宅の建設が行われている事です。この事からも、壬生町が新しい住人の獲得に力をいれている事がわかります。壬生町の外から新しい住人が入ってくる事で壬生町も今後さらに変わってくると思います。人口の変化とともにどのように医療の側から町民をささえていくかもまた変化してきます。そのために重要なのが、公衆衛生、予防医学なのではないかとこの研究室配属においてより考える事が増えてきました。これらの重要性は壬生町に限らず日本全体においてより高まってくると考えております。今後も研究室配属を通じて公衆衛生学について見識を深めていきたいと思ひます。



5年 樋上 まこ

こんにちは。獨協医科大学医学部5年の樋上まこと申します。この1年は子供食堂でのボランティア、東京マラソンのでの医療ボランティア、ドイツ研修など様々なことを経験できたように感じます。3/3に行われた東京マラソンの医療ボランティアについて書きたいと思ひます。昨年も参加させていただいたのですが、今年は外国人ランナーも多く、私は主に外国人ランナーを担当いただきました。私たち医学生が医師、看護師、トレーナーの言ったことを英語で外国人ランナーに伝えることが主な役割でした。医療現場で英語を使うのは初めてでしたが、時にはスマホで英語を調べながら行いました。具合が悪そうで、英語も通じず不安そうな外国人患者が適切な処置と私たちが英語でコミュニケーションをとることで、笑顔で帰っていく姿を見て、嬉しかったです。私は4月から6年生になる予定ですが、やはり海外の方と話すことが好きなので、将来的にも国際診療や臨床留学を目標に頑張っていければいいなと思ひました。



みなさん、活動の参加やニュースレターの記事の執筆等、ご協力ありがとうございました。公衆衛生は私たちの生活に身近なもので、大学の座学でなくても考えたり学んだりできる機会が日常にあふれていると思ひます。むしろ大学の外での人との関わりの中で経験し感じたことのほうが大きな学びになるかもしれません。病院で出会う患者さんは、必ずどこかの地域で誰かとのつながりの中で暮らしています。患者さんの病気だけでなく、そんな社会背景にも関心を寄せて理解できる医師になれるよう、この研究室配属の活動経験が役立ってくれればうれしく思ひます。

編集後記：今年度最後のニュースレターを最後まで読んでいただきありがとうございます。来年度もみなさんといろいろな楽しい活動をしていけたらと思っていますのでぜひ参加してくださいね。4, 5月(6月?)のニュースレターはお休みさせていただき、6, 7月あたりからまたぼちぼち発行していきたいと思ひますのでお楽しみに！